

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長 目黒

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長 / 山本讓二 幹事 / 森 幹雄

プログラム

- | | | |
|-----------|------------|--|
| ● 本日 | 会員誕生日 | 結婚記念日 |
| 情報集会報告 | 6月9日 平井 誠治 | 6月7日 齋藤 清藏
6月8日 ニノ宮清信
6月9日 長谷川哲哉 |
| ● 次週予定 | | |
| 各委員長 退任挨拶 | | |

No. 2560

第44回 6月5日

出席報告

前例会

会員総数	42名
出免会員	9名
出免出席	9名
基準会員出席	33名
出席率	100%

前々会

第41回 5月15日

欠席会員	11名
内メイクアップ	6名
修正出席率	90%

例会 / 毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

国際ロータリー第2510地区 第1グループ I M

- | | |
|---|--|
| 13:30 登録開始 | 14:35 講演 演題「私と財団」
RI 2510地区ロータリー財団
委員長 岩城 秀晴様 |
| 14:00 開会・点鐘 RI 2510地区 1 G
ガバナー補佐 清水 陸 | 15:05 = 休 憩 = |
| 国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」
斉唱 | 15:15 DVD上映「2012~2013年度国際奉仕
タイ検証ツアー」報告
RI 2510地区 国際奉仕委員会 |
| 四つのテスト唱和
妹背牛RC会長 真鍋 剛様 | 15:40 ガバナー講評
RI 2510地区ガバナー 細川 好弘様 |
| 歓迎の言葉
留萌RC会長 山本 讓二 | 15:50 次年度ガバナー補佐紹介
次年度ガバナー補佐挨拶
羽幌RC 茶谷 恵一様 |
| 来賓・クラブ紹介・ガバナー補佐挨拶
RI 2510地区 1 G
ガバナー補佐 清水 陸 | 本年度ガバナー補佐へ記念品贈呈
直前ガバナー補佐 山田 圭二様
(深川RC) |
| ガバナー挨拶
RI 2510地区ガバナー 細川 好弘様 | |
| 来賓祝辞 留萌市長 高橋 定敏様 | |

第43回 5月26日(日) 天候/晴

16:00 閉会・点鐘

R I 2510地区 1 G

ガバナー補佐 清水 陞

諸事お知らせ S A A 田中 公一

= 休憩 =

「新旧会長幹事会」 1 F 会議室

16:00 懇親会・乾杯

深川 R C 会長 大西 祥太様

17:50 散会・閉乾杯

羽幌 R C 会長 大橋 鉄夫様

《ご来賓》

留萌市長 高橋 定敏様

R I 2510地区 ガバナー 細川 好弘様

(静内 R C)

R I 2510地区 ロータリー財団委員長

パストガバナー 岩城 秀晴様

(札幌南 R C)

R I 2510地区

2 G ガバナー補佐 篠島 弘様

(滝川 R C)

3 G ガバナー補佐 増山 柳様

(江別西 R C)

4 G ガバナー補佐 藤森 敏明様

(札幌モーニング R C)

5 G ガバナー補佐 武部 實様

(札幌南 R C)

6 G ガバナー補佐 谷川 淑郎様

(余市 R C)

歓迎の言葉

留萌 R C 会長 山本 譲二

2012年～2013年
度国際ロータリー
2510地区第1グ
ループ I M の開催
にあたり、ホスト
クラブを代表し皆
様に歓迎のご挨拶



を申し上げます。本日は、留萌市長高橋定敏様が公務ご多忙の中、来賓として出席をいただいております事に感謝申し上げます。又、国際ロータリー 2510地区細川ガバナー、岩城パスト

ガバナー、外地区役員の皆様そして第1グループの深川クラブ、妹背牛クラブ、羽幌クラブの会員の皆様、多くの皆様がこの留萌の地へお集まりくださりまして、心より御礼申し上げます。

本日の I M は「世界で良いことをしよう」をテーマとし財団にスポットを当てて進めて行きたいと思っております。本 I M は全て手作りで、会員の専門職を多に活用し、それぞれの立場で思いを込めて皆様をお迎えしております。不行き届きなことがあるとは思いますがロータリーの友情でお許しを戴きたいと思っております。最後になりますが、この I M が有意義な一日であり明日からのロータリー活動の活力となることを願っております。簡単楚辞ではございますが、開催地クラブを代表して歓迎のご挨拶といたします。

ガバナー補佐挨拶

1 G ガバナー補佐 清水 陞

本日は留萌にしては珍しく暖かい日になり、私の家の裏にも桜が咲き始めました。ようやく留萌にも春がやってきたのかなと思われま



す。本日は I M 開催にあたり、国際ロータリー第2510地区ガバナー細川好弘様はじめ、地区ロータリー財団委員長の岩城秀晴パストガバナー、それから公務ご多忙の中ご出席くださいました留萌市長高橋定敏様、また第2グループから第6グループまでのガバナー補佐の皆様にもご出席頂きました。ガバナー補佐の皆さんに参加していただき、私も心強く感じています。これも細川ガバナーのお人柄にあるのだなと思ひ、感謝をいたしております。また、本日第1グループのメンバー 137名の会員の皆様にもご登録を頂きました。I M はロータリーを学び知識を広め、相互の親睦を深める事を目的としていると思ひます。

本年度の田中作次 R I 会長は、「奉仕を通じて平和を」をテーマとし、そして細川ガバナー

は「ロータリーを新世代と共に未来に繋げよう。地域や世界に役立つ奉仕をしよう。そしてもう一度親睦と友情を拡大しよう。」と地区目標を掲げられました。私は地区目標の理念を考え、IMのテーマを「世界で良いことをしよう」としました。ロータリー財団をよく理解して、財団が次年度からスタートする「未来の夢計画」を身近に感じていただく様にこのテーマといたしました。本日講演をいただきますパストガバナーの岩城様は、札幌南ロータリークラブ所属で、1975年入会ですので、大ベテランのロータリアンです。税理士で岩城会計事務所の代表でもあります。以前は四丁目プラザの代表であったことは皆様もよくご存知の事と思います。地区では青少年交換委員や、米山記念奨学会の委員長、そしてロータリー財団の委員長を4年も務められております。58歳といっても良いくらい若く、現在85歳になりますが、大変忙しくされております。本日のIMの講演が終わりしい札幌にお帰りになりますので、ご了承ください。講演の後は皆さんお待ちかねの懇親会になりますが、留萌の浜もいつも風ぎていとはかぎりません。皆さんのお口に合わないかもしれませんが、みんなで楽しく過ごせればと思っております。

最後になりましたが、本日のIMにご尽力いただいた関係者の皆様と、登録ご参加いただいた皆様にあらためてお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ガバナー挨拶

R I 2510地区ガバナー 細川 好弘様

本日、留萌市長高橋様、そして岩城パストガバナーのご同席をいただき、第1グループ4クラブの皆さんが一堂に会してのインターシティ・ミーティング、開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。



はじめに、国際ロータリー第2510地区運営に

あたり多大なご協力をいただき、この場をお借りして感謝とお礼申し上げます。特に、昨年10月に開催した地区大会には遠路の所、多くのロータリアンそしてロータリー家族の方々にお集まりいただき、盛り上げていただいた事に感謝を申し上げますと共に、頭が下がる思いで一杯です。大変ありがとうございました。2012～13年度も残すところあと36日となりました。クラブ公式訪問では清水ガバナー補佐はじめ、各クラブ会長・幹事さんの温かい心配りに触れ、出会いとロータリーの熱意に酔いながらの、日々楽しい友情に感謝をしている所でございます。

さて本日は、清水ガバナー補佐からご案内をいただきました第1グループインターシティミーティングでございます。先ほどご紹介がありました高橋留萌市長をお迎えして、テーマを「世界で良いことをしよう」として地区財団委員長の岩城秀晴パストガバナーの基調講演を戴く事になっております。ちょうど本年の7月からスタートいたしますロータリー財団の新しい補助金モデル「未来の夢計画」を理解していただく、時期を得たプログラムであります。企画準備をされた清水ガバナー補佐とホストされた留萌ロータリークラブの会員の皆様に敬意を表し、感謝とお礼を申し上げる次第です。

この未来の夢計画では、私たちが持てる限り最大限に世界で良いことをするという、重要な目標に向かって進んでいます。詳しくは専門であります、長年財団でご尽力いただいております地区の功労者でもあります岩城パストガバナーより「私と財団」という演題でご案内があるかと思えます。私たちロータリアンとして出来る事、どんな些細なことでも地域社会の平和に繋がる事であります。それは本年度田中作次RI会長の願いに繋がる事でもあります。奉仕を通じて平和を築けるかどうかは、このIMに参加されたロータリアン次第でございます。インターシティミーティングは決議や決定はありませんが、自らを捧げる超我的奉仕を実践し、平和構築に努めるロータリーを皆で学び、楽しみ、そして友情を深める素晴らしい1日になる事を期待申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

きます。本日はどうぞよろしく申し上げます。

ご祝辞

留萌市長 高橋 定敏様

今年の冬は留萌はかつてない大雪でした。どの位前かといいますと、昭和31年が物凄い吹雪が続いた年で、その時は、



残念ながら2人の女の子が買い物の帰りに亡くなった事故があった年でした。関門に恍惚ありで、この厳しい気象状況を先人は乗り切ってこの街を作ってきました。この頃ようやく桜も咲き始め、カッコウも鳴き始めました。農作業の準備もこれから進む時期になったのかなと思っております。

自然から春の息吹、桜から元気をたくさんいただきます。自然からの大いなる恵み、人との出会い。出会いが私どもに大きなエネルギーをくれます。実は清水ガバナー補佐は、私の剣道の先生でした。51年間の付き合いになります。私は中川一郎先生の秘書時代、また道議会、市長として8年目ですけれども、よく言われる事は「姿勢が良い」という事を常に言われます。これは剣道で、清水先輩から教えていただいたその姿勢が、今日までの私を高く評価してくれるものと思っております。私は素晴らしい出会いを頂いたのかなと思います。留萌市内のロータリークラブの会員の皆様に何度もよくお会いします。ロータリークラブの皆様の強い信頼関係、そして深い絆で結ばれている、まさにロータリアンとしての共感の中で活動しているのかなと思っております。

本当に、今日お集まりのロータリークラブの会員の皆様方の日頃の活動に敬意を表したいと思いますし、まさに共感時代をこれから生き抜くすばらしい組織ではないかなと思っております。私はこの日本の国に生まれて良かったなと思っておりますが、天皇陛下をいただいて、天皇陛下はご挨拶の時に常に、世界の民の平和を祈っている。東日本大震災の時はこの東日本の

被災地に心を寄せてという言葉が使われますが、基本的には世界の民の平和を願う、そう言う思いがあるという事を、日本人としてのある意味での誇りだと思っております。まだチベットへは行った事はありませんが、報道で見る限りチベットの民が祈る姿が映った時に、何故祈るのですかと聞かれると、それは「世界の人々の幸福を願っています」とチベットの民が誰もが言うのに、私はチベット国民は素晴らしい人々だと思っております。

ロータリークラブの皆さんの奉仕活動が、愛情ある奉仕活動が、平和へと繋がる。まさにこれからの社会、経済的にも各国が競争する時代の中で、大変な事が起こりうる可能性がございますが、共感時代と申しましたが、そういう職種を超えた人間と人間とのつながりの中、連携の中から生まれる共感時代こそ世界の平和に繋がるのではないかと感じている一人でもあります。改めてロータリークラブの会員として活躍されている会員の皆様方に、全てに心から敬意の誠を捧げ、私からのお祝いのご挨拶と致します。本日は誠にありがとうございました。

基調講演「私と財団」

R I 2510地区ロータリー財団

委員長 岩城秀晴 P G 様

本日は第1グループIMにお招きいただき、ありがとうございます。先程らい、清水ガバナー補佐や会長からお褒めの言葉



や推薦を頂戴した事を心苦しく感じております。けれども、光栄に存ずる次第でございます。本日の講演の題を「私と財団」といたしました。その前に私がどの様にロータリアンになったか、そして現在に至るまでのロータリーに対する考え方を若干述べさせていただきます。

私は1927年に生を受け、場所は現在の滝川市でございますが、当時は滝川町でございます。親の職業から旭川に転居し、今で言えば旭川商

業高校、当時の旭川商業学校を卒業しました。当時は商業学校と中学、そして工業学校と師範学校とに分類させておりました。私の家は貧乏でしたので、就職できるようにと商業学校に進学いたしました。翌年2年生の時に第二次世界大戦に突入しました。当時は12月8日に皆様もご存知の大本営発表があり、学校生活では戦争の教練などの教育も受けました。この学校を卒業する年がちょうど終戦の年で、昭和20年の3月に予科練に行くか、陸軍士官学校に行くかなどと兵隊一色でございましたので、私も陸軍士官学校を受ける事としました。残念ながら落第しまして、就職をどうするかと考えたところ、中国の満州にて就職する事になりました。これは学校に割り当てられた就職を選んだ結果です。

昭和20年5月に旭川を出まして、一週間かけて満州の新京に着きました。毎日午前中が仕事で、午後から教練・練習をしておりましたが、8月10日に空襲があり、それからの私の人生は大きく変わりました。日本が戦争に負けた、その負けた事によって、今までは日本人は世界の平和の為に世界の名手だと言って威張っていたのが、その日から日本人は中国人から奴隷の扱いをされるようになりました。私も生きる為に色々な事をしましたが、その当時の生き方が私の人生を大きく変えることになりました。人類の愛し方、日本人だけではない、世界には中国人や韓国人もいるのだからという考え方にかわりました。それ以来、私は中国人、韓国人の考え方を理解させていただきました。韓国の方とは縁があって、私は日韓友好親善協会の会長を引き受けております。現在の状況ではあまり良くありませんが、たとえ政治側が悪くとも人々が人間として生きる生き方があると思いますので、お互いに困った時には助け合う事が人間として必要な姿ではないかと信じております。

わたしがロータリアンになった動機というのは、世界で良いことをしようというアーチ・クラフ氏の言葉ではありませんが、そんな大きな考えではなく、単に社会に何か良いことをしたいな、と考えたからでございます。昭和51年5月に札幌南RCに入会しました。当時は札幌

でロータリークラブに入会することが厳しくて、テリトリーがございました。大通り公園から南は札幌クラブには入れませんでした。札幌クラブは大通りから北の企業でいわゆる一流企業が入る、我々のような企業は卑下する訳ではありませんが、商業のクラブだという事で南RCに入会させていただきました。それでも当時は入会が困難で、例会はパークホテルで行なわれましたが、席が足りなくなるような状況でした。当時は会員が140名おりました。会員も選んでおりました。しかし今はどうでしょう。クラブへ入ってくださいと頼まなければなりません。

私が入会した時代とは大きく違います。そのような中で、私が何を思ってロータリークラブに入会したかと申しますと、人類として人間としての愛し方は大切だという事で、どんな所でも同じであると思っていたからで、“社会奉仕がしてみたい、良いことをしてみたい、どんな事でも良いから、どんな事が出来るかわからないけれど、社会奉仕がしてみたい”という気持ちで入会させていただき、35年間無欠席でクラブ活動をさせていただいております。

そんな事から会長をさせていただいたり、地区の米山奨学委員長をやったり、地区の仕事もやらさせていただきました。そしてはからずも、2001年に皆様とお会いする機会としてガバナーをさせていただきました。この大役が私の最後かなと思っておりましたが、ロータリーは許してはくれず、その3年後にロータリー100周年があり、その地区の担当となりましてシカゴにも行って参りました。記念事業として何をしようかと色々考えましたが、当時のガバナーは遠藤さんでございまして、苫小牧の人でした。その方々と色々協議をして“韓国3770地区と交流をしよう”という事で決まりました。これが一つの社会の架け橋になるのではと期待して、現在も地区として交流を続けております。この辺の事はご存知の方も多いと思います。これで私の仕事も終わりかなと思っておりましたが、2007年に“財団の委員長をして下さい”との命令を受けまして、これは酒井ガバナーの時でございますが、それじゃ3年だけと思って軽い

気持ちで受けました。ところが今度は“未来の夢計画をやるのでその架け橋をやって下さい”との事で、また3年間の1クールをやらされる羽目になりまして、そして現在に至っております。

皆様方にはこの間、財団のセミナーにて色々なご無理な注文やお願いし、浄財をお願いしております。ここで財団についてお話をいたしますが、皆様方で財団はいやだなと思っておられた方もいらっしゃるかも知れませんが、現在のロータリーは財団無くしてロータリーを語ることは出来ません。財団があってプログラムが在るのですから、プログラムをするためには財団の資金がなければ出来ません。ですのでこの財団について少し触れさせていただきます。

財団は1917年、アトランタ国際大会にてアーチクランフ氏が「世界で良いことをしよう」と述べ、それがロータリーの皆に認められて始まりました。日本にもようやく公益法人ロータリー日本財団が出来ました。しかし、米山のように寄付控除が受けられませんでした。2年前にようやくこれが出来るようになったばかりでございます。ドルによる寄付でございますので、1ドルが現在100円位ですが80円の時もございますので、円高の時に寄付すると大変有利でございます。私も円高の時に寄付をさせていただきました。しかし、ただ寄付をすれば良いのではなくて、この寄付金をどの様に使われるのかを考えなければなりません。これが一番大事な事で、今までは財団でこの使い道を考えておりました。青少年の問題、奨学金の問題、これらについて考えながら使われておりましたが、段々と奨学金の利用者が少なくなりまして、私が最初に財団委員長になった時には10名から20名の希望者がおり、6～8名の人を選んでおりました。現在は希望者が7～8名位しか応募者がおりません。選定が厳しく無くなってきています。奨学金は1人17,000ドル位の支給になりますので、8倍しますと1,500～600万円位かかります。

しかし、奨学金を利用される方が少なくなっておりますが、大変優秀な方も利用しており

ますので、ご安心ください。この前の選定には小樽クラブより推薦がございましたが、ハーバード大学へ留学したいという方もおりましたので、皆さんから戴いたご寄付を有効に使わせていただいております。

今まではロータリーの上のほうで使い方を考えておりましたが、来年からは我々でこの使い方を考えようという事になりました。これが未来の夢計画でございます。未来の夢計画、大変良い言葉でございます。ぜひこの言葉のようになっていただきたいと思いますが、未来を考えるなら当然過去も知っておかなければなりません。プログラムは大きく分けると、人道的なプログラムと教育的なプログラムに分けられます。今までのプログラムは教育的プログラムに7割以上が使われておりました。これからは、教育的な寄付より人道的なそして人間愛のある寄付を考えようと言う事なのです。本日、高橋留萌市長さんがお見えですが、地域に還元しよう、地域で至らないことをロータリーが応援しよう、手助けをしようというものです。これが未来の夢計画の中に含まれます。

話を戻しますが、財団の活動には皆様ご存知のGSEがございます。留萌クラブさんにも来たことがあると思いますが、昨年も来ましたし、その前にはスウェーデンからも来ました。ドイツからも来ました。職業人ベースの交換親善ですので、他国との友好と親善が図られる事業でございます。先ほどお話した地域に還元する人道的事業も今までにも行なわれてきましたが、今までは皆様から戴いた寄付の半分が国際ロータリーの方に送られて、残りの半分のうち2割位が人道的支援に使われておりました。これからは、この人道的支援を5割に引き上げようという事になりました。例えば、小樽さんで言えば「この道路を景観の良い桜通りに変えようではないか」とか要望がございました。恵庭さんからも深川さんからも、この人道的支援の事業の協力依頼が来ておりますが、この2割の枠の中では無理があり、資金のカットをするのが常でございます。これを5割にして少しでも大きな事業として利用していただこうと考えており

催してはという声も出ている位、財団に貢献をされております。人間愛のある良いことをしよう、その内容として地域への奉仕プログラムを含めて、ロータリー財団は全世界に貢献をしておりますが、財団に心打たれて地区の財団プログラムに貢献されている想いが皆様に伝わったのではないかと思います。講演の中で日韓関係のお話もありましたが、当地区は3700地区との姉妹地区でもあります。先刻の地区大会にお邪魔をさせていただきましたが、大会の中でR I 会長代理の方とお話をさせていただきましたが、「今は日本と韓国の間には色々な課題がありますが、ロータリアンとしては前向きに仲の良い、そういう地域になることを望んでいます。」とお話をされております。財団につきましては、ロータリーをはじめ、より良い世界を築こうというビジョンを共有する、さらに財団支援者の皆様に支えられているプログラムでございます。平和な世界を築く、未来のための国際ロータリーのロータリー財団のプログラムでございます。財団寄付金が補助金となり、助けを必要とする地域社会や平和フェロシップ、そして奨学生の教育支援、ポリオプラスの活動にも役立てております。ポールハリスの言葉に「ロータリーは友情の精神の元に奉仕をし、寛容の精神の元に結束をしている仲間である」と言及しています。

田中作次R I 会長も、ロータリーに入会して人生のかけがえの無い生き方を学んだとお話をされておりますが、親しい友人で誕生した国際ロータリーは、108年の歴史の中で優秀な頭脳と温かい心を引きついで、世界の平和をベースに日々偉大なロータリーへ前進しているのは確かです。

本日のIMには、2510地区最終のプログラムに華を添えていただきました。第2グループから第6グループのガバナー補佐の皆さんが出席をされております。これも地区にとりまして初めての事でもございます。清水ガバナー補佐からこれもガバナーの人柄とお話されましたが、そうではなく、清水ガバナー補佐の人柄でここにお集まりになられたのだと思います。誤解の

ないようにお願いします。

ロータリーが世界で良いことをする、この事は財団の寄付でもあり、会員増強や汗する奉仕活動、これが目に見える現実であります。併せて目に見えないものとして、慈しみ思いやり、友情などがありますが、奉仕の心を育みながら財団の寄付に繋げていく、そういう事が世界で良いことをしようとする事になって行くのではないのでしょうか。

最後になりますが、皆様方がロータリー活動に更なるご尽力を賜りますように、この場からお願い申し上げまして一言、コメントとさせていただきます。今日はご苦勞様でした。

